

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.5

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886

186

極 秘

大石
長
嘉平代
1947.2.9

米側
T-4
G-3
C-1

ア、B、C
多分下
知

愛知大臣マ代一大使公認(沖縄返還問題)

47.8.28

米比一長

前28日午後4時30分頃6時10分まで本省大臣接見室
においで行なわれた公認概要決り。 (先方

ス、公使、ウ、通訳官、当方ア、協局長、赤谷事務
官、比米比一長同席)

1. 交渉の原則的了解

(1) 大臣が事務レベル交渉の進展に筋水、右交渉
は現行の安保条約A-C関連取極の体系に

適用され、
その中の枠内での解決を、コ、エ、フという形式
で、総理訪米の際に結着をつけるとの原則的

了解の下にせぬ、水、エ、フと確認(在日米軍)

(2) 大使より、米側とは、コ、エ、フが補足的な
保証(SUPPLEMENTAL ASSURANCES)の文に

7.12の合意により、沖縄返還着手
出来るとも望んでいす。右方、議会の対し具体

的に如何なる手続をとるかは未定、
(3) 大臣が、2-3の案は7.12の合意を以てあり、

二、三の案はコ、エ、フで解決し得る、部分は
総理の対国会、大蔵館の対議院説明で

補充することもあり得、かつ、
発言(在日米軍) 大使は以上の外、秘密の

了解(在日米軍) 必要とあるかも知れないと述べて、
対し大臣が、秘密の了解は現在も二、三の案

1.24あり、と説明された。

2. 要旨内題に関する大臣所見

大臣所見内題は①の戦斗作戦行動に関する②のり社
た戦争が迅速終結を期した場合は③の内題

以下の如く述べたと共に 別の観点より韓国・国府に
対する日本の工作の可能性の内題に言及し、目下総理

にも上申に検討中であるが、未だ成案はないと述べた。

(1) 戦斗作戦行動に関する所見

(イ) 朝鮮半島

(a) 大臣は①の口頭スモウと総理は自分の公報におい
より朝鮮半島に武力戦争が起るとは日本の安全に影響する

朝鮮の静穏の保持は日本にとり大問題であると述べたこと

想起に②の今日の日韓関係会議で、首外務部長官が

朴正熙の公報に米側が韓国は米韓条約の^{の承認}下で
も二重の対韓防衛コミットメントを要する^{の承認}と述べた旨を内閣

の上二の点充分留意を要せしむると、本日日韓共同コミ
ニテ一語一語に言及せしむると、③の昨27日米側に手交

の共同声明等にわが国の朝鮮半島への関心と安心に
よることを、但し主権国として留保を以てし、事前協議の

権限を明確に GIVE AWAY するべきに明記し得ると
述べた上、日本側の真持は充分理解にほいと要望した。

(b) 次いで大臣の答へに大臣は日韓会議で、^{（補遺）}崔長官は
迅速後の沖繩、半島の対韓援助能力低下云々の点

加^{（加）}具体的には、^{（の行政防衛）}の行政防衛
簡化す。①米韓条約の韓国~~下~~下の地域、中に
沖繩が含まれており、迅速後どうなるか、日本も考えたい

こと②日韓内には安保条約はあくまでその締結を考へていないか
^{（日米・米韓内）}兩國の強固な信頼関係、^{（の承認）}締結の付与の中で安全にする

工夫を以て対応し得ることを要望（左とを明記した）

(c) 大臣は、無責任かつ危険な北洋の悪化下韓国人が

「通説（中絶）は 3年前協定の締結、特に時局が「か」いり＝と化す
（米国の）有るの際の）の対韓援助能力の有効性特に

即時性を大幅に低下せ、以て北群の政策を阻害する
てはなからい、^{可成り} ^{はな} ^り ^は ^な ^ら ^い ^と ^い ^ふ ^と ^も ^あ ^り、韓国は協定の

米政府人は 韓政府との交渉に痛感して、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た
有るの際、米国以外援助能力はなく、かつ、この援助が即時

必需有ると主張した。二点に対し、大臣は 本土並に、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た
韓国に於けるに記述せぬ、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

り、上記の対韓、対国協定は、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た
政府と米わが国とは、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

(b) 台湾

大臣は 韓国と異なり、台湾は単に防衛上の問題で

なく、先般のロッキン長官の演説に、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た
後の 77年大蔵省の発言に、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

米国の対中政策の柔軟性を増やした。後、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た
自分と、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

た。二の英文言明方式は、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た
＝ア、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

(2) リンゴと米政府の交渉

大臣は、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

当局参考までに、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

(3) 核問題

大臣は、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

と、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

(4) 右大臣 9月12日の記者会見

日本側の考え方の理解を求めた、^い ^は ^し ^た ^と ^述 ^べ ^た ^と ^し ^た、

3. 實質問題に關する大使所見

A. 大使の明快な所見表明に關し、(1) 題目又或の實地上の必要な事と政治上の困難を如何に

調整するかにあり、自国と北は (1) 南北が華国の對
韓、台、中、日とのコミットメントの遂行能力を害す (IMPACT)

ことを欲し (2) ないことを確信し、他方、北側が
公開の文書で、本報に關して、必要協力を云々するに

に問題があることと理解するが、もとより北側と北側の
本報を言う気は毛頭ない (本報の枠内で解決したい) こと
後、以下の如く述べた。

(1) 韓国

~~北側は~~ 38度線は日南の防衛線であるが、

韓国に對する文書は未だ曖昧であり、國務省と北は
明快な文書がないと、60年11月には存続させたい意向で

ある ~~北側は~~

(2) 台湾

~~北側は~~

(1) 大臣御指摘の如く、華国は中華戦争を欲せず、国際
社会への租入の (1) 通商 (2) 貿易の樹立を望んでおり、

台湾のコミットメントは、台湾の起す事件の尻尾に
華国がこれらにたいして、極めて慎重で、先づの国府軍

の中華砲撃を洗う事件の際にも、華国は毅然と対応する。

(2) コミットメントを著しく、中華を攻撃するに、北側は

あるが、その反面、華国の台湾防衛能力が欠損するに
致すことと見られると、中華の台湾攻撃を阻害

北側の能力が低下し、防衛に支障を
与えることと見られる。

したがって結果とあり、自国の利益上、北側は ~~北側~~

と北は コミットメントを一方の宣言以外の非公認了解で

「(中華側の) 攻撃にたいして武力攻撃の明らかな場合、華国

の手は縛らるゝ」との確信を検討中である。

(4) フォルシオ案

双方協定の結果、^(口頭で合意)「大規模な備え」の増加

の進展を示す検討(注。現在我が国は「^{予備的な}」作戦体系

232=9の骨子の作成が完了。^(精製)作戦行動計画

を決定した。7月24日付で、(注)本日は日米合同で、
極東の安全保障に對して、米国のコミットメントの観点

より、返還後の基地使用に對して検討した。また大規模な
救済問題に對して日本の立場を表明し、^(信託に基く核抑止力)大規模な

米国の依然として「CREDIBLE NUCLEAR DETERRENCE」
を方針としておりと考へて、日米関係の改善に、この

説明を先行するに合意。

(5) 右方大使訪日 = 7月 - 大規模な取組の外部に因る

資料を入手し、昨日定例記者会見で、米側との交渉に

上級幹部と話し合ふ、7月 - 外交の協力と関係の改善に對する